

ポーランド 映画祭²⁰²⁰

今年で9回目となるポーランド映画祭。コロナ禍の中でギリギリまで開催すべきかどうか検討を重ねてまいりましたが、このような状況だからこそ少しでもポーランド映画の持つ力を感じて頂きたく開催を決定いたしました。例年と比べ短い期間ではございますが、今年もぜひポーランド映画祭にお越しください。

*11/20(金) 上映前にマリア・ジュラフスカさん(ポーランド広報文化センター所長)、11/22(日) 上映前にバゲヴ・ミクスキさん(駐日ポーランド共和国大使)の挨拶があります。

デカラーグ Dekalog HDリマスター版

監督:クシシュトフ・キエシロフスキ Krzysztof Kieślowski
1989-90年 / ポーランド語 / 585分 / カラー / TVP - Telewizja Polska S.A.

旧約聖書の十戒をモチーフに、ワルシャワの巨大アパートに暮らす人々の人生模様を描いた585分の連作集。テレビドラマとして製作されたものの、その質の高さが大きな話題を呼び1989年ヴェネチア国際映画祭で上映、後に世界で劇場公開された。キューピックら世界の名だたる映画監督も絶賛したキエシロフスキ監督の代表作。



11/21 土 10:30
11/23 月(祝)15:30



11/21 土 10:30
11/23 月(祝)15:30



11/21 土 13:00
11/25 国 10:30



11/21 土 13:00
11/25 国 10:30



11/21 土 15:30
11/25 国 13:00

監修:ヤン・コマサ Jan Komasa
2019年 / ワルシャワ・ドキュメンタリー / 115分 / カラー
© 2013 Free Range Films Limited The British Film Institute / Curzon Film Rights 2 and Channel Four Television Corporation.

ヨハネ・パウロ2世 生誕100年記念

ヨハネ・パウロ2世 あなたを探し続けて

Jan Paweł II. Szukalem Was...
監督:ヤニスワフ・シュミット Jarosław Schmidt
2011年 / ポーランド語 / 90分 / カラー



ポーランド初人のローマ教皇、ヨハネ・パウロ2世のドキュメンタリー。その親しみやすさ、開かれた心、ユーモアセンスによって世界中に愛された彼の生き様やメッセージの数々、2020年は生誕100年にあたり、ポーランドでは「聖ヨハネ・パウロ2世の年」と定められている。今回はそれを記念しての上映。

11/20 土 10:30★ 11/22 国 15:30★

クシシュトフ・キエシロフスキ Krzysztof Kieślowski

1941年、ワルシャワ生まれ。名門ウッチ映画大学で学び、66年に初の短編映画を手がける。以後ドキュメンタリーを中心にして制作。79年の『アムチュー』でモスクワ国際映画祭金賞を受賞し国際的に注目される。大作『デカラグ』を経て発表した『ふたりのベニコ』(91)と『トリコール三部作』(93-94)によってカンヌ、ヴェネツィア、ベルリンの三大映画祭の各賞を制覇。その後の活躍が期されるも96年に54歳で逝去。



第1話／56分 (第1話・2話併映)
ある運命に関する物語

出演:ヘンリク・バラノスキ、ヴァロディエフ・クラタ

大学教授のクシシュトフは息子のバジェウとふたり暮らし、理性とその隠れであるPCを信じる父は、息子に計算を教えている。二人は近所の池の水の厚さを調べ、安全にスケートで滑れる割り出す。ところが…。



11/21 土 15:30
11/25 国 13:00

第2話／59分 (第1話・2話併映)
ある選択に関する物語

出演:クリスティナ・ヤダ、アレクサン德拉・バルディニー

危険状態の夫を愛しながらも別の相手との子を身ごもってしまったドロタ。彼女は孤獨な老医師に、夫が助けるのであれば子供をおろすという。果たして医師の助言とは。



11/21 土 10:30
11/26 国 10:30

第3話／58分 (第3話・4話併映)
あるクリスマス・イヴに関する物語

出演:ダニエル・オルブリスキ、マリア・バカルス

家族とイヴを祝っていたヤヌーシュの前に、かつての恋の愛人ガザが現れる。行方不明になった現在の恋と一緒に搜してほしいというエウジニアの申し出を引き受けたヤヌーシュだったが…。



11/21 土 10:30
11/26 国 10:30

第4話／58分 (第3話・4話併映)
ある父と娘に関する物語

出演:アドリアナ・ビゼジスチク、ヤスーシュ・ガヨス

ミハ수가出張の途中に待ちうてるのは娘アンに宛てた手紙。死後開封するよう書かれたこの手紙を、ある日自宅で発見するアン。そこには彼女を産んでぐに死んだ母の筆跡があった。



11/23 月(祝)13:00
11/26 国 13:00

第5話／60分 (第5話・6話併映)
ある殺人に関する物語

出演:ミロスワル・カクシッシュトフ・ゴロビシュー

タクシー運転手を殺害し死刑の判決が下された若者と、彼を救えなかった弁護士。本作は再編集され長編として公開、カンヌ国際映画祭の審査員賞、国際映画批評家連盟賞などを受賞。



11/21 土 13:00
11/25 国 13:00

*上映前に3分程度の解説動画が付きます。

ポーリッシュ・シネマ・ナウ!

聖なる犯罪者

Boże Ciało

監督:ヤン・コマサ Jan Komasa
2019年 / ワルシャワ・ドキュメンタリー / 115分 / カラー
© 2013 Free Range Films Limited The British Film Institute / Curzon Film Rights 2 and Channel Four Television Corporation.



少年院を仮設故郷になったダニエルは、ふと立寄った教会で新任の司祭と勘違いされ司祭の代わりを命じられる。型破りな言動に村の人たちは戸惑うが、徐々に信頼されてしまうようになり…。ポーランドのカタディー賞とされる「2020 Orły Eagle Awards」で作品賞をはじめ11部門を受賞、その後も世界中の映画祭で計49の賞を獲得した他、アカデミー賞国外映画賞にもノミネートされた。

11/22 土 10:30 11/26 国 15:30 ★上映前に3分程度の解説動画が付きます。

ヤン・コマサ

Jan Komasa

1981年、ポーランドのボズナン生まれ。長編デビューアート・ソサイア・ルーム(11)がベルリン国際映画祭・ライム部門に出品され話題を呼び、続く『リベリオン・ワルシャワ大攻防戦』(14)は本国で大ヒットを記録。フェイクニュースを題材にした『ヘイター』(20/Neflixにて配信中)はトライベッカ映画祭のインターナショナル・ナラティブ部門で最優秀作品賞を受賞。今世界で最も注目される若手監督のひとり。



『聖なる犯罪者』2021年1月15日より公開! 配給:ハーコ

マルツェル・ウォジンスキの世界

反骨精神あふれるドキュメンタリー監督として、時代の変動を見つめ続けてきた記録映画監督のマルツェル・ウォジンスキ。今年80歳に近く彼の、社会と向き合う真摯な姿勢と軽妙な語り口が味わえる3本の傑作短編を上映。

11/20 土 15:00 11/22 国 13:00

*上映前にアダム・ミツキエヴィチ・インスティチュートのフィルムエクスパートであるグジェゴッショ・スクルプスキによるマルツェル・ウォジンスキについての紹介動画10分程度が付きます。



マルツェル・ウォジンスキ

Marcel Kozinski

1940年、パリ生まれ。国立記録映画スタジオで電気工として働いた後、ウッチ映画大学に入学。卒業後は監督として同スタジオに戻る。共産主義政権では反体制を貫き社会の病弊を追求、90年代からは愛や人生など普遍的な題材を扱った作品を中心に手がける。本国ではレトロスペクティブも開かれるなど、ポーランドを代表する記録映画監督。



なにがあっても大丈夫

Wszystko może się przytkać

監督:マルツェル・ウォジンスキ Marcel Kozinski
1995年 / ポーランド語 / 39分 / カラー

/



なにがあっても大丈夫

Wszystko może się przytkać

監督:マルツェル・ウォジンスキ Marcel Kozinski
1995年 / ポーランド語 / 14分 / カラー

/

元先人不明で届けられなかった大量の手紙。そこには大切な人や天国にいるであろう神様への思いが込められたものも含まれているが、やがてすべてはスクラップされる運命に…

配達されなかかった手紙

Poste Restante

監督:マルツェル・ウォジンスキ Marcel Kozinski
2009年 / ポーランド語 / 14分 / カラー

元先人不明で届けられなかった大量の手紙。そこには大切な人や天国にいるであろう神様への思いが込められたものも含まれているが、やがてすべてはスクラップされる運命に…

アンコール上映

来年2021年に生誕100年を迎えるスタンスワフ・レム

ソラリスの著者

Autor Solaris

監督:ボリス・ランコシ Borys Lankosz
2016年 / ポーランド語 / 56分 / カラー
© Lem.pl/fotografia wykorzystana w filmie Autor Solaris



SF小説の金字塔「ソラリス」の著者スタンスワフ・レムの誕生日に合わせて、彼の死後遺された手稿を題材にした伝記映画。ユダヤ知識人の一家に生まれながらロココストを生き延び、SFの世界に新たな地平を切り拓いた彼の生涯と作品に隠された秘密を研究者や翻訳家、レムの甥らが語る。レムの写した8ミリ映像、フィリップ・K・ディックの未公開書簡、レム自身の朗読録も初収録。

11/20 土 13:30 11/25 国 16:00 ★上映前に3分程度の解説動画が付きます。

スタンスワフ・レム

Stanisław Lem

1921年、ボーランド領ルブリフ(現ウクライナ・リヴィウ)生まれ。父はユダヤ系の医師で、ナチス占領下では性別を隠し自動車工などをして生計を立てた。戦後医学を学び、在学中から雑誌に小説や詩が掲載。50年代から60年代にかけて地球外生命体とのコンタクトをテーマにした三部作『エデン』『ソラリス』『砂漠の惑星』などを発表、その後も精力的に活動し20世紀を代表するSF作家として君臨。2006年死去。



Stanisław Lem 1921-2006 © Lem.pl/fotografia wykorzystana w filmie Autor Solaris

FESTIWAL FILMÓW POLSKICH 2020